

講壇点滴

喜びの知らせ

イザヤ書一章一〜一〇節
ルカによる福音書一章五〜二五節

牧師 姜 涇 米

ザカリヤという祭司がいました。彼と妻エリサベトは、六節にあるように、主の掟と定め、神様のみに心に従って、主を仰ぎ見つつ、また主が自分たちを見つめていく、ださるそのまなざしの中を歩み続けました。彼らは神様を信じて、神様に従って、誠実に生きてきたのです。

しかしルカによる福音書一章七節のように彼らには子供がありませんでした。子供を与えられることはイスラエルの人々にとって神様の祝福の目に見える印でした。子供がないことは、神様の祝福が欠けているという苦しみ、悲しみだったのです。

そのザカリヤが、神様の恵みの知らせを聞きました。しかしこれは、ただ彼とエリサベトに与えられた個人的な祝福ではありませんでした。「多くの人もその誕生を喜ぶ」とあります。ヨハネの誕生は、彼らの喜びであるだけでなく、多くの人々にとつての喜びでもあるのです。それは何故なのか。ヨハネが神様によって特別に選ばれており、聖霊に満たされて、神様のみ心を行なっていく偉大な人になるからです。

一七節です。これは、旧約聖書のマラキ書三章の二三〜二四節に由来します。ヨハネは、主イエスに先立って行き、人々の心を神様に

向けさせ、準備のできた民を主イエスのために用意する、そういう使命を神様から与えられているのです。そのことを一言でまとめられているのが一六節です。イスラエルの子らは神様の民であるのに、神様に背き、神様のもとから迷い出てしまっている、その人々を、主のもとに立ち帰らせる、悔い改めさせるのです。

ヨハネの生涯は、人間の感覚から見ると幸せなものではありません。ザカリヤやエリサベトにとつても、苦しみや悲しみを背負うことになったと思うのです。しかし神様が、このヨハネを、救い主イエス・キリストに先立って歩ませ、ヨハネによって人々をご自分のもとへ立ち帰らせ、悔い改めさせ、キリストの十字架の死と復活による罪の赦しの恵みにあずかる準備をさせてくださるのです。

目に見えるこの世の現実の中で、この世を生きる人生の歩みの中で、神様の祝福が見えない、自分にはそれが与えられていないように思われることがあります。私たちはそのことを、様々な場面で体験し、感じます。神様の祝福は自分に与えられているだろうか、自分にはそれがあるように思えないという思いを私たちは抱くのです。ザカリヤとエリサベト夫妻の姿は、その点において私たちと重なるのです。

彼らはその人生を、神様のみ前で、神様を信じて誠実に歩きました。神様はその彼らの祈りを聞いてくださって、祝福を与えてくださったのです。しかも、彼らが思ってもいなかった仕方で、実現してくださったのです。神様が私たちにも同じことをしてくださると信じ、期待してもよいです。主イエス・キリストの十字架と復活による救いを与えてくださった神様は、私たちの思いを超えて、私た

ちが思っても見ないような恵み、祝福を与えてくださいます。そのことを信じ、期待しつつ、このアドベントの中を、クリスマススを思い、神様のみ前に誠実に歩みましょう。

(十一月二十八日 共同礼拝)